

我孫子市五本松公園で見られるきのこ

氏家 文憲

1. はじめに

五本松公園の所在地は、我孫子市岡発戸（おかほつと）、岡発戸の台地が手賀沼の方に半島のように張り出した森林公園で広さは4.8ヘクタール。会報第32号で報告した手賀の丘公園は手賀沼の南岸にある台地公園ですが、五本松公園は対峙するように北岸に位置しています。

シラカシとスギの混交林が主体ですが、竹林もあり、アカマツ、クリ、サクラ、ヤマモモなども生えており、秋にはクリ拾いの人が、春には、ハリギリの幼木や下草のゼンマイが多いので、山菜採りの人も入っています。そして起伏の多い地形なので、箱根駅伝で大活躍の中央学院大学の駅伝部の練習場にもなっているようです。

散歩、犬の散歩、芝生広場でテントを張ってキャンプする人やバーベキューを楽しむ人、遊具で遊ぶ家族連れなども訪れますが、きのこ観察の人はめったにおりません。管理が行き届いており、伐採木は直ぐに園内から撤去されてしまうので、倒木に発生する硬質菌の観察には不向きです。自宅から15km近くあり、やや遠いので柏市内の増尾城址公園や手賀の丘公園に比べると観察頻度は少ないのですが、大型のアイタケ、ザラエノハラタケ、ルリハツタケが群生するなど、他の公園では見られない景色なので楽しみなフィールドです。

手賀沼を望む東屋の近くに、我孫子市名誉

市民の加瀬完氏（1910-1995）の歌碑「薄氷張りたる沼に白鷺はひとり立ちをりわれに似てあり」が建っています。

2. 観察年月日

以下に示すように2008年から2018年に亘り合計36回観察に出かけました。前述の理由で、硬質菌観察には不向きなので、冬季の観察は手薄です。また、近年は初見のきのこに出合う機会が少なくなり、きのこ観察熱が冷めつつあることもあって、出かける頻度は激減しております。

- (1) 2008年・1回
5月16日
- (2) 2012年・1回
4月20日
- (3) 2013年・3回
4月5日、9月29日、10月19日
- (4) 2014年・5回
3月19日、9月3日、10月27日、11月3・23日
- (5) 2015年・10回
6月28日、7月20日、8月16日、9月2・14・29日、10月14日、11月10・24日、12月27日
- (6) 2016年・8回
1月24日、3月11日、7月5日、8月27日、9月8日、10月6日、11月8・23日
- (7) 2017年・6回

4月29日、8月10・23日、9月10日、10月28日、11月13日

(8) 2018年・3回

6月28日、9月23日、10月31日

3. 観察種 (五十音順)、括弧内確認月

あ行 アイゾメクロイグチ (7・8・9月)、アイタケ (6・7・9月)、アイバカラハツモドキ (青木氏仮称) (6月)、アイバシロハツ (9・10月)、アカキツネガサ (9月)、アシナガイタチタケ (4・7月)、アセタケ属 (8・9・10月)、アラゲキクラゲ (4月)、アワタケ (6・7・8・9月)、アンズタケ属 (11月)、イグチ属 (8・9月)、イタチタケ (4・5・6・9月)、ウコンハツ (6・9月)、ウスキテングタケ (8・9月)、ウスキモリノカサ (8・9月)、ウラグロニガイグチ (6・8月)、エゴノキタケ (12月)、エビウラタケ (1月)、オオツルタケ (9月)、オオホウライタケ (6・9月)、オオヤシャイグチ (8月)、オキナクサハツ (6・7・9月)、オトメノカサ (11月)、オニイグチ (8・9月)、オニタケ (9月)、オロシタケ (12月)



アイタケ

か行 カレバハツ (9月)、カラムラサキハツ (4月)、カワリハツ (9月)、ガンタケ (6・9月)、キアミアシイグチ (8・9月)、キクラゲ (3月)、キシメジ科 (9月)、キタマゴタケ (7・9月)、キチャハツ (9月)、キツネノカラカサ属 (9月)、キニガイグチ (7・8・9月)、キヒダタケ (8月、9月)、キヒラタケ

(10月)、クサイロハツ (7・8・9・10月)、クサウラベニタケ (6・9・10・11月)、クサハツ (6・8・9・11月)、クシノハシワタケ (11・12月)、クリイロイグチ (9月)、クリイロイグチモドキ (8・9月)、クロコタマゴテングタケ (6月)、クロタマゴテングタケ (7月)、クロツブヌメリイグチ (青木氏仮称) (6・9月)、クロハツ (9月)、クロハツモドキ (7・9月)、クロホコリタケ (9・10・11月)、ケショウハツ (6・8・9月)、コウジタケ (6・9月)、コオニイグチ (8月)、コカブイヌシメジ (10・11月)、コクサウラベニタケ? (11月)、コゲチャイヌシメジ (城川氏仮称) (9・10月)、コゲチャイログワリ (8月)、コタマゴテングタケ (10・11月)、コテングタケモドキ (6・7・8・9・10月)、コトヒラシロテングタケ (9月)、コナカブリテングタケ (6・9月)、コフキサルノコシカケ (11月)



クロツブヌメリイグチ (青木氏仮称)



コゲチャイヌシメジ (城川氏仮称)

さ行 サマツモドキ (9月)、ザラエノハラタケ (6・8・9・10・11月)、シロオニタケ (8・9月)、シロゲカヤタケ (9月)、シロツルタケ? (9月)、シロニセトマヤタケ (10月)、シロハツ (7・8・9月)、シロハツモドキ (8・9月)、シロペンキタケ (12月)、スエヒロタケ (11・12月)、スギエダタケ (11月)、スジウチワタケモドキ (9月)



ザラエノハラタケ

た行 タマアセタケ (9・10月)、タマゴタケモドキ (9月)、チチアワタケ (6・8・9月)、チチタケ (6・9月)、チチタケ属 (6・10・11月)、チャニガイグチ (6・8・9月)、チャヌメリカラカサタケ (9月)、ツチカブリ (7月)、ツチグリ (11月)、ツルタケ (6・7・8・9月)、テングタケ (6・7・8・9・10月)、テングタケダマシ (7・9月)、テングツルタケ (11月)、ドウシンタケ (10・11月)、トガリツキミタケ (11月)、ドクツルタケ (8・9月)



チチタケ

な行 ナカグロヒメカラカサタケ (9月)、ナ

カグロモリノカサ (8・9月)、ナヨタケ (4月)、ニオイキシメジ (10月)、ニガクリタケ (7月)、ニセクサハツ (6月)、ニセニクハリタケ (4月)、ニッケイタケ (8月)、ヌメリガサ属 (9・11月)、ノウタケ (8月・9月)

は行 ハイイロイタチタケ (8月)、ハダイロガサ (11月)、ハナオチバタケ (9月)、ハラタケ属 (6・8・9月)、ヒトヨタケ属 (10・11月)、ヒナアンズタケ (6月)、ヒビワレシロハツ (6・7・8・9・10・11月)、ヒメアワタケ (7・8月)、ヒメカバイロタケ (5月)、ヒメコナカブリツルタケ (8・9月)、ヒメシロカイメンタケ (12月)、ヒメワカフサタケ (8・9・10月)、フウセンタケ属 (9・10・11月)、フクロツチガキ (11月)、フクロツルタケ (6・7・8・9月)、ブドウニガイグチ (9月)、ベニタケ属 (6・8・9月)、ヘビキノコモドキ (8・9月)、ホウライタケ属 (9月)、ホコリタケ (8・9・10・11月)、ボタンイボタケ (8・9月)

ま行 マントカラカサタケ (8・9月)、ミドリニガイグチ (6・7・8・9月)、ムラサキシメジ (10・11月)、ムラサキヤマドリタケ (6・7・8・9月)、モエギビョウタケ (11月)、モリノカレバタケ属 (9月)

や・ら・わ行 ヤブレベニタケ (9月)、ヤマドリタケモドキ (6・9月)、ルリハツタケ (6・9・10・11月)、ワタカラカサタケ (8・9月)、ワカフサタケ属 (10月)



ルリハツタケ

おわりに

この 10 年間に我孫子市五本松公園で観察できた種類は 133 種類（未詳種含む）、会報 29 号で報告した柏市増尾城址公園の 226 種類、会報 32 号で報告した柏市手賀の丘公園の 256 種類と比べると半分程度にとどまりました。理由には、増尾城址公園が 85 回、手賀の丘公園が 90 回の観察回数だったのに対し、五本松公園は 36 回と少なかった事、増尾城址公園の 8.4 ヘクタール、手賀の丘公園の 29.6 ヘクタールに比べ五本松公園の面積は 4.8 ヘクタールと狭い事、伐採木の集積場がなく冬場の材上生きのこの観察に不向きな事などが挙げられます。森林公園としての自然度は三者とも似たようなものなので、もっと熱心に通い、もっと心を込めて観察すれば、少なくとも 200 種類のきのこには出合えるでしょう。

ひとり観察会に近場の公園に出かけて、色々なきのこに出会い、ニセやモドキやバカ

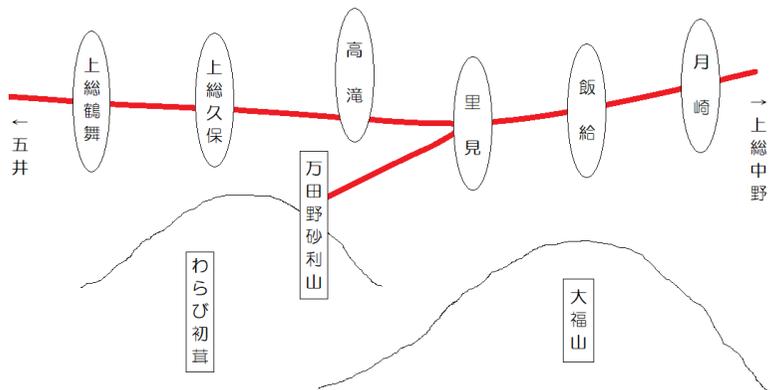
が付くややこしくて長ったらしい名前を記憶から捻出したり、図鑑で調べたりすることはボケ防止に最適です。それと、図鑑購入費用位でお金は余りかからないし、起伏の多いフィールド歩きで足腰は鍛えられるし、暇は有り余るほどあるけれどお金がない年金暮らしの老人の道楽としては最高の部類に入るものと考えられます。更に、鑑定に精通してくれば、一級の可食菌を只で獲得できる幸運にも恵まれるし、縄文時代人の狩猟採集生活の気分だって味わえます。但し、徘徊老人の一人歩きと間違えられないように、カメラや三脚、帽子、防虫ネット、長靴、腰籠などで重武装する必要があります。

この楽しみを長く続けるために、来年は新しい定点観察場所を開拓しようと思っています。千葉菌会員の皆様、お薦めの場所があれば、ご教示のほど、よろしく願いいたします。

□

房総きのこ今昔 — 砂利山で採れたハツタケ —

千葉県中部は山砂採取で有名であるが、かつて小湊鉄道の里見駅からは砂利運搬のための鉄道、里見砂利山線（万田野線）が敷かれていた。ちょうどそのあたりは万田野層という良質の砂礫層があるそうだが、同鉄道の昭和 30 年ごろのパンフレットに描かれた鳥瞰図には、その採取地である万田野砂利山に「わらび初茸」と書かれている。ワラビは日当たりのよい場所を好み、ハツタケはマツと共生するきのこで、マツは尾根や切り開いたばかりの貧栄養な場所に先駆して生える陽樹である。砂利山はこれらの快適な棲み処だったのだろう。鉄道での砂利輸送は昭和 38 年に廃止されたそうだが、現在も近隣では山砂採取がおこなわれている。しかしかつての周辺は樹木や竹が生茂りマツは少なく、観光案内にあるほどワラビやハツタケが発生する環境ではなくなってしまった。（吹春公子）



※ 当時のパンフレットをもとに作成